

高等学校・第二学年・古典

実践名：「和歌との比較に基づいた表現学習」

日時 平成23年10月28日(金)
指導者 教諭 小濱久典

1 単元名 百人一首の恋の歌

2 単元について

(1) 単元のねらい

新学習指導要領では各教科において情報モラルを身につけるように配慮することが記されている。今回は古文教材の中でも限られた文字数の中で自分の感情を表現する短歌を題材にして、生徒に身近な情報通信機器を利用した効果的な自己表現のあり方について模索させ、現代の情報通信機器の特徴やよりよい利用の仕方について考えさせたい。

(2) 系統について

本教材は「大修館書店 新編古典『百人一首の恋の歌』」によった。百人一首の中から六首を例として取り上げてある。本校では毎年学校行事として百人一首大会を実施していることもあり、生徒たちは1年次にも百人一首に触れてそのうち数首の解釈・暗記等の学習を行っている。短歌に詠み込まれた心情の把握を軸としながら、1年次からの発展学習として修辞等の学習にも重点を置き、表現活動にいかすことができるようにしたい。

(3) 生徒の実態について

対象クラスは2年普通科Bコースである。(男子9名、女子6名、計15名)学習に対しては意欲的に取り組むことができるが、自主的な発言等はなかなか見られない。今回の学習は表現活動を取り入れているので、主体的な活動に加えて、活発な意見交換等もできるように配慮したい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、当時の生活環境を具体的にイメージさせるように留意したい。そこから現代生活との違いを意識させ、情報伝達やコミュニケーションの方法等が現在とは全く異なっていること、その状況に応じた感情の伝達方法として和歌が発展していることに着目させ、高校生にとって代表的な情報通信手段であるケータイメールの特性と効果的な利用方法について考えさせたい。

(5) 情報モラル教育上の観点

- ア 情報通信機器の特徴を理解して効果的な情報伝達ができる。
- イ 受け取る相手を意識した情報伝達のあり方について考えることができる。

(6) 人権教育上の留意点

- ア 他者の人格を尊重したコミュニケーションのあり方について考え、実践することができる。

3 単元の指導計画 (事前指導、事後指導、日常的な指導等の関連指導を示す)

全六時間

本文通読・読解…三時間

表現活動 …二時間 (本時)

まとめ・考察 …一時間

5 展開

過程	指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 前時の復習	・前時の学習をふり返り、本時の学習内容を確認する。		
	2 和歌とケータイメールの共通点や相違点について考える。	・ワークシートを用いて和歌とケータイメールの授受の方法やかかる時間について共通点や相違点について考える。	・情報通信機器の特性について理解する(情報モラル教育上の留意点)	・ワークシート ・補助プリント
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 自分の気持ちを効果的に相手に伝えるメール本文を作成しよう。 </div>				
展開 40分	3 自分で場面を設定して五十字以内のメール本文を考える。	・どのような状況でどのような相手に送るメールなのかを考えながらメール本文を考える。	・場面や状況に応じた情報通信機器の活用ができる。(情報モラル教育上の留意点)	
	4 相互評価する。	・それぞれの考えたメール本文を相互評価し、工夫されている点などを共有する。	・クラスメイトの工夫した点を見つけ、的確に評価させる。	
終末 5分	5 まとめ	・いくつかの作品を取り上げ、他者に配慮したコミュニケーションのあり方について考察する。	・他者理解に基づく表現活動の意義を確認する。	